

◎ 新札幌乳業に中学校から牛乳消費拡大案届く  
 「札幌」新札幌乳業（札幌市、竹内久夫社長）にこのほ  
 ど、北海道石狩管内の江別市立大麻東中学校から、生徒た  
 ちが考えた牛乳消費拡大案が届いた。社会科の授業の中  
 で、生徒たちが出し合った意見をまとめたものだ。同校の  
 山下耕司教諭が学校に掲示するだけではもったいないと  
 して新札幌乳業に送った。消費拡大案の中には「給食の牛  
 乳パックを大きくする」といった中学生視点の柔軟な発想  
 も多く見られる。

大麻東中学校には、新札幌乳業から1日約315本の学  
 校給食牛乳が供給されている。今回作成した消費拡大案  
 は、2年生が地理の授業で地元・北海道について学んだの  
 をきっかけに、ニュースで牛乳の消費減退が取りざたされ  
 ていることから消費拡大にフォーカスを当てて意見を出  
 し合った。生徒から多くのアイデアが上がり、いつも給食  
 牛乳を供給してくれている乳業メーカーに届けたいとの  
 思いで山下教諭が新札幌乳業に送ったそうだ。

牛乳の消費拡大に向け、生徒から最も多く上がった案は  
 「乳製品に加工」、次いで「給食の牛乳メニューを工夫」「レ  
 シピの工夫」など。その中には「牛乳パックを200ミリ  
 から300ミリにする」「牛乳早飲み大会をする」「巨大な  
 プリンを作る」といった柔軟な発想も見られた。山下教諭  
 は掲示物に解説として、酪農家の厳しい現状を説明し、「私  
 たちにできることは牛乳や乳製品を消費すること。ありき  
 たりではない誰も思いつかない意見がとても貴重」とコメ  
 ントした。

山下教諭は酪農乳業速報の取材に対し「日本の地域学習  
 の中で、生徒たちに地元・北海道の課題や特色を見つめて

1位	乳製品に加工 (38人)
2位	給食の牛乳 メニューを工夫 (11人)
3位	レシピの工夫 (5人)
4位	PR作成する (5人)
6位	紙料配布する (5人)
8位	自販機を利用 (1人)
解説	

江別市立大麻東中学校から  
新札幌乳業に届いた消費拡大案

もらいたいとの思いがあった。牛乳の消費が減少していることや、余った牛乳が捨てられたことはニュースで見たり、生徒たちも知っている。北海道のおいしい牛乳を生かすにはどのようなアイデアがあるのか出し合ってみたと、取り組みの経緯を振り返る。

その上で「突飛かもしれないが、子どもや消費者目線の面白いアイデアが出てきた。現実的な案ではなくても応援になるかと思いい、乳業メーカーに送った。生徒にとっても良い機会になった」と手応えを語った。

消費拡大案を受け取った新札幌乳業は「こんな風に消費拡大のアイデアを送ってもらったのは初めて。学校や生徒が自主的に牛乳に興味を持ち、考えてくれたことが嬉しい。今回いただいた案や掲示物を何かに生かせないかと考えている」と笑顔を見せた。